

現場訪問 — 西日本旅客鉄道(株) 神戸支社

緊急車両の安全確保を目指して



コース内での緊急車両と一般車両の混合交通走行。サイレンを取り付けた緊急車両がマイクで周囲のクルマを安全に誘導し、赤信号の交差点に通過する

西日本旅客鉄道(株)では、管区内での踏切事故や、鉄道運行に伴う事故に備えて、いつでも現場へ急行できる緊急車両を各所に配置している。そうした緊急車両運転者向けの安全運転講習会が、11月8、9日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センターで行われ、当日は同社神戸支社の社員24名が参加し、安全運転のスキルと心構えを学んだ。

1日目は、関係法令などを学ぶ座学からスタート。続いて実車による「死角確認」「危険回避」などの訓練が行われ、夜には「夜間走行」のほか、一般車両の立場で、緊急車両のサイレン音の聞こえ方を確認する「サイレン効果」の実験も行われた。

2日目は「制動訓練」からスタート。続いて参加者が2人ずつペアを組み、ドライバーと誘導者(助手席)の役割を交互に務めながら、狭路における安全な指導演法が行われた。これは業務上、出動時には必ずペアを組み、助手席の者が周囲のクルマを誘導する決まりになっていることから、その状況を疑似的につくり出し、より安全かつスムーズな誘導方法を学ぶための訓練。指導にあたったインストラクターは、「もっと具体的な言葉で誘導



実際の緊急車両の走行映像を見ながらの危険予測トレーニング

してください」「指をさしながら、安全確認を行ってください」「などとアドバイスを送り、2人のコミュニケーションをさらに深めていくよう指導していた。

続く「緊急走行KYT」では、実際の走行風景を見ながら、2人でドライバーと誘導者のロールプレイを実施。最後にもう一度コースに出て、ペアで一般車両と緊急車両の混合交通路を走る訓練を繰り返して、参加者は2日間の総仕上げとして、より実践的な走行法やコミュニケーションの手法などを学んだ。

西日本旅客鉄道(株)神戸支社では、こうした講習会を実施するのは今回が初めてだが、同支社・総務課課長補佐の藤本靖夫さんは、その意義を次のように語る。

「緊急車両は、一般道でも80km/hの走行が認められるなど、法的に特別な措置がとられています。そのためドライバーは、ともすれば現場に急ぐあまり、スピードを出し過ぎがちですが、緊急車両といえども『安全』が最優先事項であることを、日頃からドライバーに認識させるようにしています。そうした安全意識をさらに高め、実践的な運転スキルを学べるこの講習会は、非常に有効だと感じ



濡れた路面での制動訓練

催し、現場の安全意識をさらに高めていきたいと考えています。」

NEWS REVIEW

●(財)交通事故総合分析センター 第13回研究発表会
交通事故に関する各種調査・分析研究を発表



10月28日、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて(財)交通事故総合分析センター主催の「第13回 交通事故調査・分析研究発表会」が開催された。

この研究発表会は、同センターが行った交通事故に関する各種調査・分析研究の成果を交通安全対策に活用してもらうことを目的に毎年行われている。

小田村初男理事長による開催挨拶の後、以下の6つの研究発表が行われた。

- 1) 「歩行者事故の特徴分析」 石川敏弘・主任研究員
- 2) 「電動アシスト自転車の事故分析」 ※ 山中明彦・主任研究員
- 3) 「走行中自転車への追突事故の分析」 猿渡英敏・主任研究員
- 4) 「交通事故例調査へのEDRデータ活用検討」 沼尻到・つくば調査事務所
- 5) 「工学と医学の連携によるマイクロ調査の臨床応用」 河野元嗣・つくばメディカルセンター病院救命救急センター長
- 6) 「四輪車の正面衝突事故 発生状況と特徴の分析」 勝岡秀明・主任研究員

※4面参照

※ QOL (Quality of Life) = 人がどれだけ人間らしい生活を送り、物理的のみならず、精神的な豊かさや幸福を感じているかを尺度としてとらえる考え方。

TOPICS

●次世代パーソナルモビリティの実証実験
ホンダの電動カート「モンパル」を活用した実証実験が熊本県でスタート



交通教育センターレインボー熊本のインストラクターが実証実験協力施設の職員10名にモンパルを利用する高齢者への指導方法を説明した



今年8月、Hondaは熊本県と「次世代パーソナルモビリティの実証実験」に関する包括協定を締結。今回の協定は、Hondaの二輪車・四輪車・汎用製品の電動化技術や、情報通信技術、太陽光発電によるエネルギー供給設備などを用い、熊本県と共同で、将来の低炭素化社会の実現や県民の生活の質(QOL)向上に向けて、実際の都市交通環境下で実証実験を行うことを目的としている。

この実証実験の1つとして、高齢化社会でのQOL向上に向け、Hondaの電動カート「モンパル」を活用した県内公共エリアでの実証実験がスタートした。今回の実証実験ではHondaから提供されたモンパルを、天寿園などの実証実験協力施設で高齢者の皆さんに利用していただき、その方々の健康増進等に、どのように寄与するかを検証していきたく考えています」と、田畑充啓・熊本県商工観光労働部産業支援課課長補佐は実験のねらいを語る。

10月5日、特別養護老人ホーム「天寿園」(熊本県熊本市)で実験のオープニングセレモニーが開催され、真崎伸一・熊本県商工観光労働部新産業振興局長と、鐘鎗正直・本田技研工業(株)汎用営業部事業企画ブロックブロックリーダーが関係者に挨拶を述べた。

オープニングセレモニーに先立ち、天寿園に集まった各協力施設の職員を対象にモンパルの指導者研修を実施。交



研修の最後に天寿園周辺の公道を走行。モンパルは歩行者として扱われるため右側通行が基本



実証実験協力施設にはモンパルが提供され、職員が高齢者に安全な利用方法を伝えている

通教育センターレインボー熊本のインストラクターがモンパルの基本操作と、利用者への指導方法を伝えた。実技を中心に、各協力施設の職員がモンパルに乗り、発進・停止・旋回・段差や坂道の通行を体験しながら、正しい操作方法を身につけた。

天寿園・施設長の米満淑恵さんは、「モンパルは通常の車いすに比べ、高齢やハンディがある方でも長い距離を楽に移動することができる乗り物です。高齢者にとって『移動できる』ことは『心が動ける』ということ。当園に入居されている方にモンパルを利用していただき、自主的に『移動できる』喜びを存分に感じてほしいと思っています。インストラクターの方から具体的な指導方法を学ぶことができ、実証期間中は私たちが安全に利用できるようにサポートしていきたい」と話す。

Hondaはモンパルを皮切りに、電気自動車の実験車両や電動二輪車などを用いた実証実験を通じて、熊本県民の方々へのさらなる貢献を目指していきたいと考えています。



オープニングセレモニーでは、平澤久夫・本田技研工業(株)熊本製作所事業管理部部長が天寿園の入居者代表にモンパルのキーを贈呈